

平成30年度 第5回 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（確定稿）

- 開催日時：平成31年1月8日（火）18時05分～19時45分
- 開催場所：田無総合福祉センター3階 第1会議室
- 出席委員：小野修平、谷口陽香、戸田亘、富澤佳代子、阿壽子、渡辺裕一
＜以上6名、敬称略、五十音順＞
- 出席役職員：佐藤文俊、妻屋良男、飯塚和幸、嶋田孝雄、長山清美

- 資料 1：西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告（平成30年11～12月）
 - 資料 2：コーディネート状況等月次報告表（平成30年11～12月）
 - 資料 3：ボランティアコーディネート実績表（平成30年11～12月）
 - 資料 4：平成30年度傾聴ボランティア養成講習会参加状況と参加者の声
 - 資料 5：平成30年度傾聴ボランティア養成講習会実施報告
 - 資料 6：西東京ボランティア・市民活動センター予定表（平成31年1～2月）
 - 資料 7：平成30年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録（未定稿）案
 - 資料 8：ボランティア活動者の懇談会 事業実施企画書
 - 資料 9：ボランティア・市民活動センター事業の基本方針
※アクションプラン（仮称）用に作成した資料です。
- 資料別冊：平成30年度第3回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録＜確定稿＞

1. 報 告 事 項

(1). 業務報告（平成30年11月・12月）について（資料1～3）

- ・精神障がい者のPCの不具合に関する依頼は、初めての相談者なのか。
→通院同行などですでにご利用になっている方である。
話しを聞いたところ、メーカーに相談しており、自身もPC操作に長けていることから、メーカーのサポートに引き続き対応を依頼することをお勧めした。結果、メーカーとのやり取りで解決したとの連絡があった。
- ・精神障がい者の方で多く相談のある方は何人くらいいるか。
→2～3人というところである。

(2). 傾聴ボランティア養成講習会の実施報告について（資料4・5）

- ・今まではグループ化しているようだが、今回はグループ化する予定はあるのか。
→9期は「クッキー」という名称で活動しているが、10期はこれから話し合う予定である。

(3). 軒下ふれあいバザーの実施報告について

- ・昨年より団体数は減ったが売り上げは昨年度並み以上にあった様子であった。

- ・場所を提供してくれたマックスバリュ田無芝久保店から同時に開催したバザーの売り上げの寄付金もいただいた。
- ・寄付は今年が初めてだったのか。
→一昨年にご寄付いただいている。
- ・寄付金はボラセンの運営費に入るのか。
→ボラセンの指定寄付ということでボランティア推進事業積立金に入る。

(4). 業務予定(平成 31 年 1 月・2 月)について (資料 6)

- ・特に無し

2. 審 議 事 項

(1). 平成 30 年度第 4 回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録 (未定稿) 案について (資料 7)

- ・修正が必要と思われる点があれば、1 月 15 日 (火) までに事務局まで連絡をお願いしたい。
- ・1 月 15 日 (火) までにいただいた意見で修正したものを確定稿とすることで承認される。

3. 協 議 事 項

(1). ボランティア活動者の懇談会の実施について (資料 8)

- ・昨年はボランティアの声から、みかん先生 (碓氷美香さん) を呼んだと思うが、今回はどのような経緯で講師を選定したか。
→職員研修でアサーションについて学び、楽しく学ぶことができた。ぜひボランティアにも体験してもらいたいと思い、選定した。

(2). アクションプラン (仮称) の策定について (資料 9)

【1. コーディネート】

- ・実施内容の「2. 地域活動者・団体をコーディネートするための一元的な体制の整備」の実施時期については、社協のアクションプランの年度計画と同じように揃えさせてほしい。

【3. 夏！体験ボランティア事業】

- ・目標 (数値) の「3. 交流会参加団体数」の数値については、正副委員長打合せで検討するのを失念していたため空欄となっている。今後、みなさまで検討をお願いしたい。

【1 1. 軒下ふれあいバザー】

- ・33 年度から市北東部での開催を目指している。
- ・目標として、売り上げは入れなくてよいのか。活動資金を団体がより得られるように目標を設定したほうが励みになるのではないか。
- ・現状の売上金は出ているのか。
→現在は集計はしていない。売り場の担当の方から大まかな様子を伺っている状況。

販売物や販売量がその年によって異なるうえ、各団体の販売者人数も年によって異なるので、目標を設定しづらい状況はある。

- ・西東京市社協では達成できそうな目標を設定する傾向があり、目指していく目標を立てづらい状況にあるようだが、目標来場者数を設定すると良いのではないか。各店舗でカウントできないだろうか。
 - バーゲンのような状態になっているところもあり、なかなか難しい状況ではある。把握できるところもあるかもしれないが、来客が集中するところや障がいのある当事者が販売をしながらカウントすることも難しいと考えられる。
- ・当日用のチラシを準備してカウントしたらどうか。
 - 店舗の軒先を借りていることもあり難しいと思われる。
 - 30分ごとに写真を撮影し、カウントするのも良いのでは。
 - 「来場者数」の目標値を設定する。今までのデータがないので数字が入れにくい、正副委員長と事務局で詰めていくこととする。
- ・売り上げ状況について、事後に簡単なアンケート等で把握できないだろうか。
 - 当日片付けが終わったところで、簡単に話を聞いたり、電話で伺ったりしている。昨年と比べてどの程度だったか、持ち込んだものは売り切れたのかなどを確認している。
- ・どのくらいの団体が売り上げが増えたかという確認は取れるのだろうか。
 - 今年は全団体から増えたとの回答はいただいている。
 - それはとても良い結果なのではないか。せっかくなので記録を残しておいても良いだろう。
- ・継続して算出していくことは難しいが、資金作りという目的を考えると十分にそれを得られたかどうかを確認することは、事業を行っていく上での大事な指標になるだろう。金額が上がらなかったらどうするのかという課題はあるが、金額を目標として扱っていくということも視野に入れたほうが良いだろう。
 - 目標を出しすぎると売り上げを出さなくてはいけないというプレッシャーがかかってしまうことが懸念される。ギスギスしてしまうと良くないと思っている。
- ・バザーをずっと続けていく上で、団体にこれだけ利益があるから続けていくという説得ができるように数字があると良いと思う。
 - 正副委員長で「参加団体のメリットを確認できる指標」を考える。

【12. 傾聴ボランティアグループ連絡会の支援】

- ・実施内容の「4. 定例会の会場確保・開催案内」の32年度からの「協力」については、「協力（後援）」とする。
- ・会場を確保する場合、32年度から団体でしなくてはいけないのか。それともボラセンのバックアップがもらえるのか。
 - 最終的には他の団体と同様、自力でとっていただくようになると思うが、すぐには難しいと思われるので、徐々に移していけたら良いと考える。
- ・定例会の会場確保について、「協力（後援）」というのは今年度と同じように確保していただけるのか、それとも会場が無ければボラセンの活動室を団体で確保して行うようになるのか。
 - 最終的には連絡会でとってもらうことになるだろう。日本語ボランティア連絡会は市が協力して確保していると思われるので、連絡会としてまずは自力でとってもらう形をとりつつも、

確保できない場合はボラセンが全面的にバックアップして会場を確保することが必要であると思われる。その際のボラセンのバックアップは永続的に行うことになると思う。

- ・連絡会が自立的に活動していくために、誰かの負担が大きくなりすぎないようにグループの中で担い手を増やしていくことなどを側面的に支援していく状況を作ることになるだろう。
- ・会場の確保について、取れる取れないが2か月前などになってしまう。その後に会場を確保しようと思っても普通の会議室では難しく、ボラセンの活動室を使うようになることが考えられるのではないか。

→ボラセンの活動室で言えば、年度末に翌年度の年間予約をする際に希望を出してもらい、希望が重なった際には調整をさせていただくようになるだろう。その際には、利用が多い団体には、利用が少ない団体に譲っていただくような働きかけをさせていただく場合もあると考える。

- ・ボラセンの活動室は、午後はフリータイムとなっていると思うが、来年度もその予定なのか。
→今のところはその予定である。保谷ボランティア活動室は午後の時間帯の利用予約も可能だが、足が無い方だと難しいと思われる。総合福祉センター館内ということになると会議室やフリースペース、活動室となる。

→一方、市内の活動場所の減少に伴い、午後の活動場所の確保を希望する声もいくつか上がっているため、午後の時間の予約も検討しなければならないのではないかと考えている。

- ・プラットフォームとしての役割ということで、連絡会が作られ、自立的に活動していくということを実現させるための支援が試されるところだろう。
- ・ボラセンは永続的に連絡会に寄り添っていくことは間違いないと考える。一緒になって走っていけたら良い。
- ・活動者数については、登録ボランティアで傾聴活動をしている人数と傾聴ボランティアグループでの活動者数を出す予定であったが、すべてを把握できていない状況である。それぞれ調べれば、重複する人は出てくるが実数は明らかになると思われる。
- ・団体数より登録者数のほうが多く見えて良いのではないかと。目標（数値）の「2. 活動者数」と「3. 活動団体数」を合わせてしまうような形もありではないか。
- ・活動団体数はクッキーを含めて、31年度は6団体になるのではないかと。
→クッキーは現段階でまだ団体として成立していない。これから詳細を詰める予定。
→4月からクッキーがふれまちルームで活動するという話しを聞いたので確認した。
- ・31年度、32年度は6団体とし、33年度から1団体ずつ増やす形とする。
- ・活動者数については、ペンディングとする。

【13. 地域団体の開催イベントへの参加と協働関係の構築】

- ・いくつ参加しなくてはいけないという目標を立てにくく、数値を増やせば職員の負担も大きくなり大変になるため。センターの職員体制も加味しながら考えたい。したがって目標についても設定していない。
- ・継続して報告が見えてきたら今後の在り方も含め改めて検討したい。

【14. 小中学校連携事業（総合的な学習の時間への協力）】

- ・担い手を育てていくことが大切との意見を踏まえた。
- ・プログラムのメニュー化も考えている。プログラムの数を徐々に増やしていく予定である。

- ・学校の先生もプログラム化・メニュー化に関わる予定なのか。福祉教育の時期と重ならない時期に行えば、職員の負担も軽減されるのでは。また学校の状況やクラス・学年の様子を聞いたほうが良いということ聞いたことがある。
- ・プログラム化・メニュー化を進めていく時に、職員だけでは負担が大きいのので、事務局機能を持ってもらい、協力してくれている人や学校の先生、運営委員を含めてチームを作って進めていくイメージもあるのではないかな。
- ・市民で学校のボランティアコーディネーターをやっている人はいるのだろうか。杉並と小平には、都教育委員会が設置した「学校支援本部」というのがあり、市民を巻き込んでおり、市民がコーディネートをしている。
- ・はじめて講座や出張講座講座も含め、市民を交えて一緒に考えていけるような場作りをしていくという考えもあるだろう。これまで市民と一緒に講座を考えるチームを作ったことはあるか。→古くはあったと思うが、現在はない。改めて今回プログラム化を図り、汎用化できるような形に持っていけると良い。プログラム化の中で幅広く関わることができ、コーディネート機能を持たせることができれば、事務局としては負担を減らすことはできる。ただし、そこに至るまでの労力がかかるので痛し痒しと言ったところである。
- ・実施内容の2番の「講演・体験内容のプログラム化、メニュー化」に「ワーキンググループの設置」を入れてみてはどうだろうか。32年度から毎年1つずつみんなで行っていくイメージでどうだろうか。
- ・モデル校として協力してくれそうな学校はあるのだろうか。先生が入ってもらうとなると時間的に厳しいと思うが、やはり現場の意見はあった方が良さそう。
- ・新しい学習指導要領から総合的な学習の時間が減らされてくる予定で、ますますボランティア活動や福祉教育について時間が割けなくなってくる。いま中学校でボランティア部があるところがいくつかあるので、その中であれば中学生向けのボランティア講座の内容について意見や知恵をもらうことができるのではないかな。ワーキンググループで継続的に関わるとなると難しいが、テーマを決めて1～2回オブザーバー的に参加してもらうこともありなのではないだろうか。
- ・ボランティア部の顧問の先生のネットワークもあるかもしれないし、なければこのような企画で先生を集めて学校同士の連携を取ってもらうためのサポートにもつながるのではないかな。
- ・河口湖でも昔、大学と高校と生涯学習のボランティアセンターのコーディネーターの連携作りをやったことがある。とても楽しかった。
- ・学校の先生は一人でたた戦わなくてはならない感じがあるから、他の学校の様子を知ることができたり、知恵をもらうことができたなら、きっともっと楽しくなるのではないだろうか。
- ・この場で形にするのは難しいようなので、プログラム化・メニュー化をどのように進めていくか、そして毎回のテーマである、事務局の負担が大きくなりすぎないような仕組みを作るために、さまざまな方に参加してもらう計画にしていかななくてはならないだろう。
- ・これまでの議論と今の提案を踏まえて、正副委員長で検討させていただきたい。郵送になってしまうかもしれないが、改めてご提案させていただくこととしたい。
- ・ここが一番大変な事業になるだろう。
- ・ここがうまく回ってくれば件数や実施回数、コーディネートや担い手などの基礎ができ、目標達成に貢献できるだろう。

【15. ボランティアグループ・市民活動団体支援事業】

- ・現在の利用状況に合わせて規則改正を検討し、充実・実施する計画となっている。
- ・ロッカーの鍵を持って帰ってしまうのか。
→スペアキーはボラセンで保管しているが、ボラセンが開いていない時間に出し入れができるようにメインのカギは各団体に1本預けている。頻繁にあるわけではないが、保管状況が悪く紛失してしまうところがある。
- ・団体が鍵を預ける場所がないだろうか。守衛室で鍵を預かってもらえないだろうか。
→それは難しい。市が直接委託しているのでボラセンの業務はお願いできない。
→保谷活動室は鍵の管理が変わる予定。詳細は未定。
- ・利用者の声を聞きながら、利用団体の活用状況を踏まえた規則作りをしていく必要がある。備考欄にその旨を明記する。

【16. 財源確保事業】

- ・売り上げが多くなり、手数料収入が伸びても、その分補助金が減らされてしまう背景がある。そのため、資金の確保に直接つながっていない。
- ・18. 気球くんファンドとつなげて考えていくと良いと思われる。

【18. 気球くんファンド（仮称）】

- ・既存、新規問わず、活動資金を支援する仕組みがまだないということで、さまざまな方々の寄附、サポーター会費、協賛金を募って資金調達を行い、それを原資として地域の市民活動を活発にしていこうという計画である。
- ・まりもや終末ノートの売り上げは収入（＝補助金減額）ということではなく、市民活動のファンドへの寄附をしてもらう流れにしてみたい、まりもが頑張ってくださったものを市民活動にきちんと還元する流れにする仕組みをつくるものとなっている。
- ・サポーター会費が1口1,000円だとすると33年度から34年度に向けて2倍の200,000円に増やすのは非常に厳しいと思われる。むしろ協賛金が少なめなのでそちらを増やしても良いのではないか。
→サポーター会費と協賛金の数値を入れ替えることとする。
- ・西東京市にはシチズン時計の本社があるのでご協力いただけるようになると良い。

【17. ボランティア保険等普及事業】

- ・保険業法の関係で補償内容を十分説明できなかったり、加入者が増えると事務手続きの負担は増加するが、ボランティア登録に結び付いていない状況となっている。必要な人に入ってもらうことは必要だが、単に増やせばよいというものでもなく、西東京市でのボランティア保険のあり方を検討する必要があるということで、見直しを含めた計画とした。
- ・受付事務体制についても、毎年度当初は加入手続きに忙殺される状況にあると思われるが、ボランティアに安心して活動してもらうために必要な制度ではあるが、十分な収益に結び付いていないといった状況もある。

- まだペンディングの部分もあるので、正副委員長による検討によりまとめていくことに対して、一任をいただきたい。

4. そ の 他

(1). 次回運営委員会開催日程について

- 開催日時：平成31年3月12日（火）18時30分～20時30分
- 開催場所：田無総合福祉センター3階 第1会議室

(2). 3月30日（土）のボラセン臨時閉所について

- ・3月30日（土）、31日（日）に社会福祉協議会事務所の移転が予定されている。
- ・通常であれば、30日（土）は開所している曜日であり、来年度のボランティア保険の手続きも行っている時期であるが、移転作業を行っている中での開所は来所者にご迷惑をおかけする可能性が高く、ケガなどを防止するためにも臨時閉所を予定している。
- ・遅くとも1月中には組織として決定をし、臨時閉所をする場合は「ぼらんていあ倶楽部」などで速やかに告知をすることになる。
- ・3月30日（土）の臨時閉所に関して満場一致で了承とする。

- 以上をもって平成30年度第5回運営委員会の審議、協議を終了し、閉会した。